

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。
本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

2016年 ニュース・イベント・ピックアップ (それぞれをクリックして詳細へ)

- 2月24日 **ルック&フィールを強化し、開発機能を追加したSL社のRTView新バージョン6.7:**
インフラ監視からオペレーション、サービスやビジネス・アクティビティ監視まで、さまざまな性能監視におけるカスタム・ダッシュボードの柔軟かつ迅速な開発と運用で、さらなる新機能ならびに拡張機能を追加
- 2月26日 **Application Performance 2015セッション内容の拡大版セミナー開催:**
「IoTで氾濫するアラートを一元管理 ~ Google マップなどを活用し、サービスやオペレーションに応じてカスタム構築する性能監視」@TEPIA(青山)
- 6月3日 **さまざまな技法のデモと事例による具体的な解説で好評のSL-GMSセミナー開催:**
「開発・保守工数を加速的に削減する、監視制御システム画面とその専用カスタム・エディタの構築技法~デスクトップ、リモート・デスクトップ、Web、画面イメージ配信などの透徹的な運用選択技」@TEPIA(青山)[右写真]
- 7月4日 **新しいカスタム機能を追加し、データソースならびにプラットフォームのサポートを拡張した、SL社のRTView新バージョン6.8:**
画面作成、データ接続、性能面で、可視化と監視ダッシュボードのカスタム構築をさらに支援
- 7月19日 **JavaベースのSL-GMSリアルタイム・ダイナミックGUIツールが、富士通による高速道路施設監視システムの開発で採用:**
SL-GMS J/Developerが、膨大な数の設備装置で構成される何百ものグラフィック画面の開発と高速なWeb運用を強力に支援
- 9月16日 **SL日本の代表取締役社長である羽島良重が、JPタワーホール&カンファレンスで開催されたApplication Performance 2016で講演 [右下写真]:**
「IoTなど複数現場から異種性能データを集約して見える化: サービスや事業に応じてカスタム構築する監視ダッシュボード事例とデモ」
- 9月28日 **米SL社、エンタープライズ向けのビジネス・マガジン Insights Success誌で「急成長IoTソリューション・プロバイダ企業トップ10」に指名:**
“ミッション・クリティカルな指令制御システムのエキスパートであるSL Corporation 創業者 CEO 兼プレジデント, Tom Lubinski”
- 10月20日 **SL-GMS Developer for .NETとそのCustom Editor for .NET オプションの新バージョン4.6aをリリース:**
DXF変換ツールを最新のAutoCADバージョン対応に拡張した他、動的グラフ部品などを追加(裏面に関連記事)
- 10月25日 **SL日本、日本赤十字社に対する寄付活動が評価され、明治神宮会館で開催された平成28年度東京都赤十字大会において「金色有功章」を受賞**
- 11月18日 **米SL社、Oracle OpenWorld 2016(9/18-9/22 @サンフランシスコ)に出展、Stream Conference 2016(9/28 @サンフランシスコ)で講演:**
ソフトウェア・アーキテクチャの最先端技術に関するカンファレンスあるStream Conference 2016では、SL社のCEO兼プレジデントのTom Lubinskiがストリーミング・データの可視化におけるチャレンジについて講演しました。
- 12月26日 **高度な監視制御システムを専門とするSL-GMS C++/DeveloperダイナミックGUI開発ツールの新バージョン6.7aをリリース:**
DXF変換ツールを最新のAutoCADバージョン対応に拡張、カスタム構成できる動的グラフ要素などを追加(裏面に関連記事)
- 12月27日 **SL日本は2016年度(12月決算)の利益の一部から、日本赤十字社に500,000円を寄付しました。**



RTViewディスプレイ・サーバによってiPhoneで運用される高対話性のWebシンクライアント



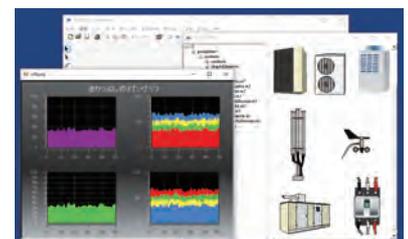
SL-GMS構築技法セミナー@TEPIA(青山)



富士通(株)様ご開発「高速道路施設監視システム」(事例より)



Application Performance 2016



SL-GMSの新バージョン4.6a(.NET), 6.7a(C++)で追加されたGraph Elementsと追加シンボル(100個)

動的属性を持ったグラフをSL-GMSDraw エディタでカスタム構築

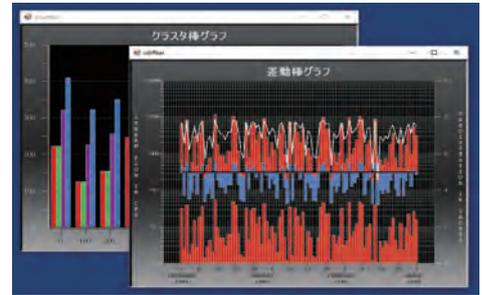
SL-GMS 製品 (C++, Microsoft .NET, Java) では、これまでも動的グラフ機能を提供してきましたが、SL-GMS Developer for .NET 新バージョン 4.6a (2016 年 10 月末リリース) ならびに SL-GMS C++/Developer 新バージョン 6.7a (2016 年 12 月末リリース) では、グラフを構成する要素として SL-GMSDraw エディタから使用できる Graph Elements を新たに追加し、リアルタイム・データ駆動で高速に動くさまざまな動的グラフをどのようなカスタム構築できるかのサンプル・デモと解説書とともに提供しています。

SL-GMSDraw エディタの Graph Elements のパレットから選択できるグラフ要素は、グラフ背景や x/y 軸、目盛、トレースなどです。

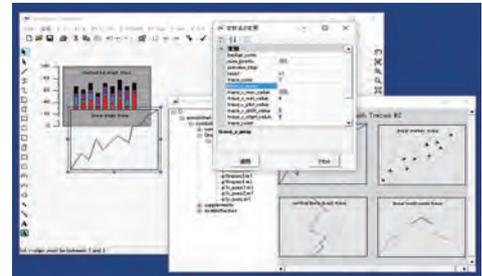
カスタム構築できる動的グラフ・サンプルとしてデモに含まれるのは、クラスタ/差動/積上げなどの棒グラフ、水平/垂直/時間軸などのトレンドグラフ、マークなどの折れ線グラフ、リニア散布図、対数軸/線形対数などのグラフ、塗りつぶしポリゴングラフ、時間軸プロット、複数色トレースグラフです。

☆SL-GMS の Graph Elements でカスタム構築できる「動的属性を持ったさまざまなグラフ・サンプル」デモビデオ (2分13秒) :

<http://www.sl-j.co.jp/demovideo/dotnet/GraphElements/GraphElements.html>



棒グラフとトレンドグラフなど、複数種類のグラフの組み合わせも可能



SL-GMSDraw エディタのパレットから、グラフ背景や x/y 軸、目盛、トレースなどをパレットから選択

RTView による高度なアラート管理

アラートと対応アクションを自由自在にカスタム設定

RTView では、さまざまな性能データからランダムに多数発生するアラート・イベントを、特定のサービスやコンポーネントに関連付けて重複排除したり、アラートを認知してその解決策のコメントを入れたり、しきい値が間違っていて誤報が出ている場合には調整し、修復メールの送信を自動化して対応アクションを取れるようにする、修復作業中にアラートを「使用不可」にして鳴り続けないようにするなど、高度なアラート・イベントの管理が可能です。

RTView では、リアルタイムなアラート・エンジンを備えており、ビルダーのダイアログでしきい値や生成条件などを対話的にカスタム設定し、アラート画面もテーブル、グラフ、メータ、独自の部品などで、自由自在にカスタム構成することができます。

アラート定義には、しきい値、深刻度、通知ポリシーなどの他、電子メール、システム・コマンド、SQL 文の実行や JMS メッセージ送信などの自動アクションを含めることができます。さらにアラート定義をいくつでもロードし、そのカスタム画面をいくつでも作成してアラートの状態を監視し、アラートのフィルタリングやドリルダウン・ナビゲーションで、分析を行ったりアクションを調整し、またアラートを認知したり抑制したりなど、さまざまなアラート状態を対話的に変更することができます。

RTView では、しきい値によるアラート、離散型 (特定値による) アラート、複数条件のアラート、外部イベントに連動するアラートをサポートしています。

☆RTView によるアラートのカスタム設定デモビデオ (2分36秒) :

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/rtview_alert_demo/rtview_alert_demo.html



Application Performance 2016 拡大版セミナー開催のご案内



拡大版セミナー「IoT など複数現場から異種性能データを集約して見える化：サービスや事業に応じてカスタム構築する監視ダッシュボード事例とデモ」

★2017年3月3日(金) 15:00~17:00 [無料・事前登録制]
@TEPIA (東京・青山・外苑前駅から徒歩4分)

セミナーサイト: (トップページからも入れます。)
http://www.sl-j.co.jp/newsevents/AP2016_session.shtml

昨秋9月16日にJPタワーホール&カンファレンスで開催された、**Application Performance 2016** セッション内容の『拡大版セミナー』です。

★セミナーのお申し込みは、
電子メール seminar@sl-j.co.jp またはセミナーサイトから承っております。



Real-Time Visibility

年3回発行 2017年1月16日発行 通巻56号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp